

会 議 報 告 書

令和4年10月4日

企画部などの魅力創生課

主査 松原 妃

令和4年9月15日（木）に第4回名取市『(仮) などの魅力冊子』編集委員会を開催したところ、その概要は以下のとおりでしたので、報告します。

会議名	第4回 名取市『(仮) などの魅力冊子』編集委員会
日 時	令和4年9月15日（木）14時30分～16時00分
場 所	名取市民体育館 第1会議室
出席者	別紙のとおり
傍聴者	0人
概要等	<p>1 開 会</p> <p>2 挨拶 相馬会長より</p> <p>本日はお忙しい中、ご参集いただきありがとうございます。</p> <p>本日は第4回目の編集委員会となる。だいぶ細かいところまで煮詰まってきた、今日は大きな判断になると考えている。</p> <p>是非、スムーズな議事が執り行われるよう、皆様にはご協力をお願いしたい。</p> <p>協議事項の前に事務局から「会議の公開」等について説明。 (事務局 守)</p> <p>名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、本会議は公開となっている。本日の会議について公開することとしてよろしいか。</p> <p>また、議事録の作成について、要点筆記とし、発言した委員の名前は残す形での作成でよろしいか、この2点についてご協議願う。</p> <p>相馬会長よりこの2点について委員に諮ったところ、質疑・反対意見は無く、会議は公開し、議事録は要点筆記・発言委員を記名することとなった。</p> <p>3 協議事項</p>

4 説明事項

『(仮) なとりの魅力冊子』の掲載項目について資料1により事務局・松原より説明。

－ 説明内容 －

前回の編集委員会では、委員の皆さんが A グループと B グループに分かれ、それぞれ 15 項目から 20 項目を目安に選んでいただいた。

これからご説明する事務局案 A、B、C は、それを基に作ったもの。

まず A 案は、A グループの意見を多めに取り入れたもので、上から順に、掲載優先順位が高いものが並んでいる。

まず一番上の「共通項」としているブロックについては、両方のグループから取り上げられたもので、掲載優先順位がかなり高いもの。

次の「単発」は、どちらか片方のグループだけで取り上げられた項目の内、優先順位が高いものを載せた。ただし A 案では A グループの意見を多めに入れている。

ここまででトータル 17 項目になっているため、このあたりが掲載項目になるのではという考え。

最後に「掲載優先度が低いもの」。優先順位が低かったものをここに分類したほか、上の共通項、単発に挙げた項目を載せることで、おのずと表現されると思われるものをここに分類した。

掲載項目を 15～20 項目に絞るという観点から、ここに分類したものは掲載を見送る可能性がある。

B 案の基本的な作りは A 案と共通である。

違う点は、単発の中に B グループの意見を多めに入れている部分。

C 案はグループワークで取り上げられた項目をうまく組み合わせれば、全て盛り込めるのでは、という視点で作成したもの。

関連する項目をまとめ、その中で大きな括りとなる項目と、その見せ方の方向性、関連する項目を考えた。

例として上から 3 番目、「閑上地区」を取り上げると、「閑上地区」が大きな括りとなる項目。取り上げ方の方向性を「よみがえった新しいまち閑上地区」とし、関連する項目として、グループワークで選ばれた中からサイクルスポーツセンター、赤貝、海の幸を入れ、更に内容を補うために事

事務局案としてサイクリストを入れた。

この案はあくまで事務局案であるため、「こういった考え方がある」と捉えていただき、委員の皆様には、大きな括りとなる項目と、その方向性を決めていただきたい。

なお、事業者募集で公開する際には、大きな括りとなる項目と、方向性は提示するが、関連する項目の組み合わせまでは提示せず、代わりに関連する項目のリストを提供し、そこから選んでもらうことで、事業者のアイディアを活かせればと考えている。

－ 説明は以上 －

(相馬会長)

事務局より資料1の『(仮)なとりの魅力冊子』の掲載項目について説明があったが、質問はあるか。

火曜日の段階で皆様にメールで事前に資料は渡っていたかと思うが、改めて本日事務局よりお話を伺って、何かご質問やご意見などあればお願いしたい。

(相澤委員)

事前に配付された資料は確認した。この事務局で作成したC案は、A案とB案から事務局の方でうまい方法は何かないかと検討のうえでできた案なのであれば、C案の形を活かしていくのが良いのではないかというのが、率直に感じた感想である。

(小室委員)

先ほどの説明で、事業者に提示するのは二重線の左側だけで、リストを提示してそこから事業者に選んでもらうとあったが、リストというのはいかなるようなイメージか。

(事務局 松原)

前回の編集委員会でのグループワークの基となった、掲載項目を事務局で83件まで絞ったリストを提示した方が、凝り固まらないで自由にやってもらえるのではないかという考えがある。

(小室委員)

例えば、「住みよさを追求し続けるまち」という方向性の部分に関しては、委員会ではこのような意見が出ているため、この辺りからお願いしますという形になるのか。

(事務局 松原)

「住みよさ」の切り口を「住みよさを追求し続けるまち」とした場合に、それを裏付けるというか、根拠となる構成要素として何を載せるかといった時に、83件のリストから選んでもらうというやり方で考えている。

(赤井澤委員)

A・B案には「ヒト」というのがあり、地域活動団体が両方に載っているが、C案では「ヒト」が外されている。

「ヒト」には非常にPR効果と言うとおかしいのだが、名取の人の一部を紹介することによって、名取の人たちはこういう人たちなのだ、というイメージ的なものが浮かぶ気がして、人を全く入れないのはちょっと寂しいかなという感じがする。

(事務局 守)

今回皆さんにお話いただきたいのはまさにそういった所である。

前回、Bグループでは「コト」から「ヒト」や「モノ」へ展開していくという話があった。

例えば「学都」であれば地域活動とか生涯学習とか、地域で活躍している人がたくさんいますよという方向性の中で示せば、「ヒト」として生きてくるのではと思う。まさにそういった部分について、切り口や方向性について皆さんに協議していただきたい。

ただ我々は、皆さんから出た意見の中でしかピックアップできないので、結果的にこうなった。

したがって、皆さんの中でもう少し「ヒト」をクローズアップしてほしいということであれば、例えば方向性の中で地域活動をしている人についても触れてほしいとか、そういったものを入れていただければと思う。

あくまでこの方向性(案)というのは、我々がヒントとなるものを入れただけである。これに引っ張られるのではという懸念もあったが、とりあえず、ヒントになればと出しているだけなので、やはり方向性については今までの編集委員会で話が色々あったため、皆さんからアイデアを出していただければと思う。

当然、業者へ委託する際にも今までに出た1000件から、皆さんで83件

ピックアップしていただいた分、更に編集委員会の中でお話が出た分についても業者の方に提供して、「編集委員の中ではこういう意見が出ている」といったものを理解したうえで、作っていただこうと思っている。

まず今日は項目を決めて、その次に方向性について決めていただければと思う。

(相馬会長)

では、話の方向性をまとめやすくするためにお伺いする。

今回事務局の方から A・B・C 案といただいたが、先ほど相澤委員から C 案が全体のまとまりが見えてくるのではないかという話をいただいた。

まずは ABC の中で、どの形で進めていくのか決めた方が話を詰めやすいかと思うがいかがか。

(赤井澤委員)

事務局からメールで前もって資料をいただいた。それで載っているものを見て、全体的にこれを載せたらまとまるなという感じがした。

当然その A・B 合わせた形のものが、ある程度無難に載っていくのが全体の魅力に繋がるのかなという気はしていた。

ざっとこの項目だけを見て思ったのは、とりあえず、これを載せることによって全体が見えてくるような気がして、取り上げるのも無難なものが出てくるため、こんな形でまとめればいい冊子ができるのかなという感じがした。

(齋藤(裕)委員)

私も A 案と B 案をまとめた C 案の方で、そこから項目をどうするかを決めていけばいいかと思う。

結局は、多分 A グループも B グループも基本的なところは同じなので、あとは単発で出てきたものをどう組み合わせるかになると思う。

まずは A 案と B 案を合わせた C 案を基に、更に方向性というか、どう見せていくかを決めていけば、ある程度皆さんの意見が揃った冊子になると思う。

(相馬会長)

宮澤委員はいかがか。

(宮澤委員)

	<p>異論なし。</p> <p>(相馬会長) 伊藤委員はいかがか。</p> <p>(伊藤委員) 私も皆さんがおっしゃっている方でいいと思う。</p> <p>(相馬会長) 皆様にお話しいただいたが、前回の取りまとめの結果を見ても分かるように、議題に上がっている項目は両グループ一緒に、それをどう優先順位を組み立てるかというところの会議だったと思う。 結局この C 案のようにまとめていただけると、A グループ B グループ両者の言いたいこと伝えたいことがまとまってくるのではないかなど、私も同意見で、C 案で進めていけばいいと考えている。</p> <p>(相馬会長) では事務局としては、ここからあとは C 案をどう詰めていくか、ということよろしいか。</p> <p>(事務局) はい。</p> <p>(相馬会長) では今度はこの C 案をどう詰めていくかというところに関して、協議を変えていきたい。 先ほど赤井澤委員より、「ヒト」という部分が少し見えなくなるのではないかという意見もいただいたが、その辺りも含めて、皆さんのご意見を頂戴できればと思うがいかがか。</p> <p>(赤井澤委員) この「ヒト」というのは、要は名取にはどんな人たちが住んでいるのかという、人間的な興味という部分がどうしても出てくるような気がする。 「コト」「モノ」というのは、当然、ピックアップしていけばポンと上がってくるような感じだが、住んでいる人たちの「ヒト」を表すというところはなかなか難しいところがある。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ただし、A案B案の中に載っていた「地域活動団体」ということで、子育て系のプレーワーカーズとこども食堂3団体、環境系の愛島もりあげ隊とカタクリの里、キラキラパルク増田西と載っていたが、まさにこの人たちを表現に出すことによって、人に優しい活動が息づいているのだという部分では名取を表す良い機会かなと思う。

特に、こども食堂3団体が出てきているが、こども食堂というのは全国に何千とあり、私はなとりこども食堂の顧問をやっているけれども、こども食堂がある町というのは、ない町がほとんどなのだろうが、できた当時その3団体が同時くらいにできている。したがって、名取の人の力という部分を感じるうえでは、ものすごくいい材料かと思う。

当然、こども食堂が活発になれば、それが住民の力になっていくという部分では、大いにこども食堂を育てていかななくてはならないという部分もあるだろうし、そういう非常に重要な部分を持っている気がする。

したがって、おおっぴらに「名取にはこども食堂が3つもある」という、それが一つの大きな魅力になってくる気がする。

ということで、「ヒト」の中には是非可能だったらこども食堂を入れていただければ大きな力になってくるのかなという気はしてくる。

(相澤委員)

今後、最終的に委員会が終わった後に業者の方に委託するという形になってくると思うが、その時のやり方として、一つは今キーワードで出ている「コト」「モノ」「ヒト」が明確に伝わるような。具体的に「コト」はこれ、「モノ」はこれと書いていないにしても、「コト」「モノ」「ヒト」という文脈が通じるような一つのルールを設ける。

それからもう一つは、方向性の案ということで、比較的どうとでも捉えられそうな自由度の高い方向性案が提示されているのかなというところで、これをより細かくというか具体的にしていくのか、またはよりぼんやりさせるのかは分からないが、そういう匙加減・境目を探していくと、その二つの「こういう方向性の中で「コト」「モノ」「ヒト」という文章を作ることを目指していくのですよ」というコンセプトが伝われば、比較的、一つのテーマに対して、我々が目指しているような、格好良い文章みたいなものを目指していけるのではと思う。

(相馬会長)

A案B案それぞれで出た意見で一応その方向性があったが、それをまたこの一つのものに落とし込むとなった時に、またそこでA案B案のそれ

それぞれのグループの方々の意見や意向をどう汲み取ってまとめていくかというところが、また難しくなってしまうという気がする。その辺をどう解消すればいいか。そういうところが大きな議論になるような気がするが、伝わるだろうか。

(宮澤委員)

なんていう「コト」のキーワードで括るのかなと思っている。鳥取は「すごい！」だった。手元に名取の「wonder NATORI」がある。これは発見とか不思議とか。なにかこう、一つのワードで括れればいいなど。

それで「ヒト」はどういう繋ぎ方ができるのか想像していて、それによって表現の仕方が決まってくるなど。

コンセプト。冊子を若者にとってもらうためのパワーワードとか、そういうキャッチフレーズやコピーがあると、一つのものにまとまってくるのかなということを考えていた。

(相澤委員)

今、宮澤さんがおっしゃったことで思ったのですが、「なとりの魅力冊子」というのはまだ本タイトルではないのですよね。

そのためおそらく、ここのタイトルっていうのも、まさにそういうキーワード、ある種方向性をまとめるためのキーワードというのをうまく埋め込んでいけると、考えやすくなるのかなと思った。

(相馬会長)

タイトルに関する協議は今まで触れてこなかったところだが、この辺りは事務局では方向性など考えはあるか。

(事務局 守)

タイトルについては、この後に説明する業者への発注に関連している。

業者への発注方法には二つの方法がある。一つは入札。一番価格の安い業者と契約する方法。もう一つはプロポーザル方式といって、何社か企画提案してもらって「こういう形で冊子を作る」というのを提示していただいたうえで、我々が望んでいるような冊子に一番近い業者を選ぶという方法がある。

我々としては、できれば目に見える形で発注できるのがプロポーザル方式なので、そちらでやりたいという考えはある。予算規模の面と、準備にどうしても1か月程度かかるため、納品まで5か月程度しかないという

時間の関係で、手を挙げる業者がいるかというのも当然あるが、プロポーザルだと、例えばタイトルを含めてキャッチコピーやライティングを提案していただけるので、我々とすればそちらの方で考えている。

ここで皆さんにタイトルを考えていただいても、なかなか決まらないのではないかと思う。であれば、プロのライターが考えたタイトルの方が、特に 20 代・30 代に刺さるようなものを考えていただけると思うので、我々とすれば、業者に考えてもらいたいと思っている。

(宮澤委員)

それに異論はない。それが一つ決まったとして、キーワードとか。

そこから項目を、例えば「仙台空港」であれば、「すごいぞ仙台空港」だとか、「すごいぞ熊野三社」とか、そういう風に道筋ができていくのかなと。整理しながらしゃべっているのだが。

提案される中で、私たちの思いと一致すればいいのだが。そこが道筋としていいのかなのか。

(事務局 守)

そこについては、あくまで皆さんで出していただいたうえで、業者さんに考えてもらえれば一致はすると思う。

(宮澤委員)

ここでそのキーワードを決めて仕様書に載せてというよりは、自由というか、広く考えてもらう点に異論は無い。

(事務局 守)

選考委員会を作って、実際に点数を付けていただく委員さんを 5 名と考えている。もしプロポーザルをやるとなれば、会長と相談しながら皆さんの中から 5 名出でいただいて、選考していただければ、皆さんの気持ちもある程度くんだ形で点数が入るのではと思っている。

全員となると、10 人以上になってしまい大変になってくるので、会長と副会長を含めた 5 名に絞らせていただきたい。

(宮澤委員)

仕様書案に記載のコンセプトを見たらすっきりした。

(相馬会長)

結局、1000 あったキーワードから我々委員でここまで絞り切ったというところだけでも、大きな方向性というのが見えていると思う。

今事務局から話があったように、ここからもう少し具体的に、例えばキーワードだとか、そういうデザイン的な部分を素人の我々が詰めるよりも、ある程度業者さんに委託して、例えば出てきたものに対して我々の方で少し意見なり協議会的なものに諮って進めていく方がより形にしやすいのかなと個人的には思う。

(赤井澤委員)

タイトルというか、要は「なとりの魅力」の冊子を作っているということが、本にすると「これだよ」という中に魅力とか何とかっていうものが出てこない。でもこれは魅力をPRしている冊子なのだなど分かる。というようなところは、それはそれでいいような気がする。

そのところが少し難しいが、一気に言ってしまうのは一つの方法だと思う。ということは、名取って「コト」「モノ」「ヒト」みんな魅力なんだよねとか、分かりやすい言葉でボンと言ってしまうのも一つのやり方だと思う。

「魅力の本」とは言わないまでも、「コト」「モノ」「ヒト」みんな魅力なんだよね、ということを一気に言ってしまうと、あとは中身を見てもらうというのも一つかなと。

(相馬会長)

企業の方に、そういった我々の思いを投げたうえで、あとはキーワードにあるものをどうまとめ上げてくるのか様子を見て、その上がってきたものに対して意見を言っていくという方が、見えやすいし分かりやすいかなと思う。

(赤井澤委員)

この間もらった本がこれだけれども（茨城県境町や宮城県川崎町のパンフレット）、境町の方では自然と近未来が体験できる街というタイトルがついているが、これを見ると「ヒト」「モノ」「コト」全てきちんと表しているのかなと。こう見ると無難にこの3つのことが出てくる。

だから、タイトル的に「宮城県名取市「ヒト」「モノ」「コト」全て魅力」みたいな。そういうことでいいと思う。

(相澤委員)

実際、業者さんという話が出てきた時に、我々委員の立場って何だろう
と思いついてみた時に、多分設置要領に戻ってくるのかなと思った。

それで設置要領を見ていくと、第2条の(1)になどりの魅力資源の選
定とあって、これは既に終えているのかなと思う。(2)には構成に関す
ること、(3)に制作するために必要なこととあって、多分(1)、(2)、
(3)というのは、ある程度仕様書に反映させる部分として一つあると思
う。それから実際仕様書に反映して、委託して、その間に我々の意見とい
うか、アドバイザー的な立場で(1)、(2)、(3)の部分を業者さんと
一緒に話をしながらやっていくという流れになるのかなと思った。

なので、多分今の時点だと、事務局からいただいた魅力冊子の仕様書の
案、ここがこれで足りているのか、委員として何か加えたいものがあるの
かどうかというところをもう少し定めていけると次に進んでいくのかな
と思った。

(相馬会長)

では、既に仕様書ということで書類ができあがっているため、事務局か
ら発注方法の説明をいただきながら、この仕様書に関してもお話しいただ
いて、そこに我々委員としてどういう部分、思いを入れ込んでいくかとい
う進め方でよいか。

読んでいただいて、特に問題がなければこれでいきたいと思う。

(相馬会長)

では、事務局よりこちらの説明に移っていただいてよろしいか。

事務局・松原より、資料2を基に発注方法について説明。

－ 説明内容 －

資料2「発注方法の比較」をご覧ください。

発注方法は大きく分けて競争入札とプロポーザル（企画競争）がある。

まずは左側の競争入札から説明する。

競争入札で重視するのは、価格の安さである。おおまかな流れは、

1. 入札参加者を募集する
2. 一か所に集まり入札を行う
3. 入札価格（見積金額）が最も安い者が落札者となる
4. 落札者と契約を締結する

である。

契約相手は、入札価格（見積係る）が最も安かった者を選ぶ。

メリットは、経費を最小限に抑えられることと、なぜその業者が選ばれたのかという公平性の確保が容易な点である。

デメリットは、契約前に仕上がりイメージを確認できないことである。

次に、プロポーザルについて説明する。

こちらの重視する点は、企画提案内容である。おおまかな流れは、

1. プロポーザル参加者を募集する
2. 参加者から企画提案書を受け取る
3. 書類およびプレゼンテーションにより審査・採点する
4. 最高得点者（優先交渉権者）と次点の者（次順位交渉権者）を決める
5. 優先交渉権者と契約締結に向けた協議を行う
（優先交渉権者との協議が整わない場合、次順位交渉権者と協議を行う）
6. 協議が整い次第契約締結

である。

契約相手は、企画の内容と価格を総合的に評価し、得点の高かった者を選ぶこととなる。

メリットは、契約前に完成イメージを確認できることと、契約に向けた協議の中で発注者の意見や要望を反映できることである。

デメリットとしては、その協議が長引く可能性があること。

その他として、企画内容を評価する審査委員を編集委員会委員の中から選出することを考えている。

続けて、『(仮) なとりの魅力冊子』作成業務委託 仕様書（案）についても説明する。

1. 業務の名称は『(仮) なとりの魅力冊子』作成業務委託とする。
2. 目的は今までの編集委員会で話してきたことをベースにしている。

名取市では、20～30 歳代といった次世代の担い手となり得る層の流出が顕著である。

そこで、市民が生活している中で感じる名取市の良いところや好きなどころ（なとりの魅力）を、冊子を通じて再認識してもらい、地域愛を深め定住を図ることを目的とする。

また、市外の方にも“なとりの魅力”を伝え、興味・関心を抱いてもらえるよう働きかける。

3. 冊子のコンセプトも、目的と同様今まで話してきたことをベースにしている。

	<p>(ア)ターゲットは20～30歳代とし、ターゲットが興味を持つような表紙・内容とする。</p> <p>(イ)市民が名取市での生活において感じている“なとりの魅力”を掲載する。</p> <p>(ウ)“なとりの魅力”を市内外へ発信し、市内在住者へは地域愛の醸成および定住促進となるよう、市外在住者へは名取への興味関心を抱かせるよう働きかける。</p> <p>(エ)文字を少なくし写真を多用する、二次元コードを使用するなど、見やすい誌面となるよう工夫する。</p> <p>4. 委託期間は、契約締結日から令和5年3月31日（金）までとする。</p> <p>5. 業務内容</p> <p>(ア)冊子の企画（冊子タイトルを含む）、デザイン、取材、写真撮影、原稿データの作成、編集、校正、印刷等の冊子作成に関するすべての業務。</p> <p>(イ)冊子に掲載する施設等への取材及び調整等については、受託者が行うものとする。ただし、市が管理する施設等については、その限りではない。</p> <p>(ウ)業務に必要な資料の収集や写真撮影は受託者が行うものとし、市は既存資料等の提供など受託者の業務遂行に協力する。</p> <p>(エ)上記（ウ）において撮影した写真は、市が広報活動等で自由に使えるよう肖像権や著作権等の権利を整理したうえ、CDもしくはDVDにデータを保存し納品すること。</p> <p>(オ)冊子の内容をWEB公開できるようPDFデータを作成し、CDもしくはDVDにデータを保存し納品すること。</p> <p>(カ)『(仮)なとりの魅力冊子』編集委員会開催時は出席すること。</p> <p>(カ)は、委員の意見を反映してほしいという意味である。</p> <p>6. 冊子の仕様</p> <p>サイズ：B5判</p> <p>ページ数：48ページ以内（表紙を除く）</p> <p>製本方法：中綴じ</p> <p>7. 掲載項目</p> <p>次の9項目を必ず載せること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 仙台空港 2 熊野三社 3 閑上地区
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>4 古墳 5 自然・自然の豊かさ 6 せり・せり田 7 「学都」・名取 8 住みよさ 9 花卉栽培</p> <p>加えて、別紙一覧に記載の項目の中から、上記 9 項目に関連するものを「ヒト」「モノ」「コト」それぞれのジャンルからバランスよく選び、組み合わせることとする。</p> <p>ここでいう別紙一覧とは、前回のグループワークで使用した 83 項目のリストを想定している。</p> <p>8. 納品物数量 冊子：2,000 部 冊子 PDF データ：CD もしくは DVD で 2 枚（正・副各 1 枚） 写真データ：CD もしくは DVD で 2 枚（正・副各 1 枚）</p> <p>9. 納品期限 令和 5 年 3 月 31 日</p> <p>10. 納品場所 名取市役所 3 階 なとりの魅力創生課事務室</p> <p>11. その他 市が提供する『(仮) なとりの魅力冊子』編集委員会議事録の内容を確認し、冊子の構成内容の検討材料とすること。 この仕様書を各事業者へ送付する際に、第 1～4 回編集委員会の議事録を一緒に送る考えである。</p> <p>－ 説明は以上 －</p> <p>(相馬会長)</p> <p>只今説明があったが、我々が確認しなくてはならないのは、仕様書 7 番の掲載項目の部分。「別紙一覧に記載の項目を冊子に掲載すること」ということで、先ほど事務局の方で約 80 項目選定したキーワードを業者の方に預けて、そこからは業者の方で考えていただく形になると思う。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

それで我々委員としての役割を果たすことができるのか。ただ、上がってきたものに対してそこから、今度は我々が協議してきたこと、思いを業者の方と話を詰めていくという部分も、我々の役割かなと思う。

この辺りに関していかがか。

(赤井澤委員)

ページ数が 48 ページ以内となっているが、この数字はどこから来ているのか。

(事務局 守)

前回の説明の中で若い方が気軽に手に取るような小冊子というお話をされていて、表紙を抜いて 48 ページ以内を小冊子という定義があるので、48 ページ以内と設定した。

(赤井澤委員)

了解した。

(相澤委員)

現状では発注方法はこちらでいくと決まっているのか、それとも、これから我々で議論するのか。

(事務局 守)

事務局としては、皆さんの目で確認しながら自分の考えに近い業者を選べるので、プロポーザルの方がいいと思う。その辺りを含めてどちらがいいのかご意見をいただきたい。

ただし、プロポーザルでは予算額を出すので、その金額ではできないという業者がいるかもしれないし、もしかしたら全く手が挙がらない可能性もある。そこは我々が水面下で色々業者さんにあたってみて、このくらいの規模だったら手を挙げますという業者さんが一社でもいれば、プロポーザルができる。一社の場合は平均点数より上であれば可とし、それより下なら不可という判断もできる。

ただ、意見を聞いて、冊子のイメージも分かるのはプロポーザルである。入札でも金額に満たなければ不落になってやり直しにはなるが。

(相馬会長)

事務局の案ではプロポーザルがいいのではとなっていて、私もプロポー

ザルでいいのではないかと思うが、皆様よろしいか。

・同意の声あり

(相澤委員)

ちなみに本題とずれるが、市の方で予定価格を設定した時、プロポーザルも入札も同じような価格帯になるのか。

(事務局 守)

予算は決まっているので同じ価格になるが、入札だと、ぐっと下げてくる業者さんがいるかもしれない。ただ、その内容は分からない。

(相澤委員)

了解した。

(相馬会長)

予算の中で最大限のパフォーマンスを示していただける業者を探すには、やはりプロポーザルかなと思うので、発注方法はプロポーザルとする。

(相馬会長)

なんとなく、今日の落としどころが見えない。

業者に我々の思いを委託して、そこからどういうものが出てくるのかという方向性で行きたいとなると、今日の会議の落としどころがなかなか目に見えないため、すごく中途半端なまま終わってしまう感じがしないでもないが、皆さんの了承が得られればC案の形で、プロポーザルの形で業者の方に提示をして、出てきたものに対して、我々の方で今まで話してきた部分などは、業者のデザインに関して意見を言っていくという進め方でいいのかなと思う。

(赤井澤委員)

プロポーザルだと、デザイン性などの部分が入ってきて、結局は業者の人達が平等に条件を受ける時に、例えばC案を出して、C案を業者がもらった時に、「仙台空港アクセス鉄道、マルシェ、サイクルスポーツセンター・・・これらは絶対入れないといけないのだな」というところで、大体誌面の写真のところが決まってくる。それをどのように表現していくか、どのようにデザインにしていくかは、印刷屋さんのセンスの問題になって

くと思う。だから C 案というのをもう少しきちんと業者に提示できる形にしていけないと、我々が言いたかったことが伝わらないという部分が出てくるのではと思う。

提示する案をもう少し親切に、丁寧にしてやれば、我々が思っていたものに近いものができてくる可能性があるということだから、一回、C案を読んで、直すべきところは直して、付け足すところは足して、それでこれを業者に見せるのだという状態に仕上げる必要があるのではないかと思う。

(相馬会長)

では、事務局の方で何かあるか。

(事務局 守)

あまり関連することを決めてしまうと、今、赤井澤委員がおっしゃったように、「これは入れないといけない」と企業さんが引っ張られてしまう。

なので、今考えているのは、そこまでは決めない。この資料にも、「こちらから右の内容は事業者には提示しません」と書いている。我々が考えているのは、方向性の中に、そういったものが分かるような形で、ぼかしではないが、方向性を入れて、あとは手を挙げた企業が今までの編集委員さん達の発言やデータを見たらうえで、それぞれアイディアを出してもらうのがプロポーザルの良いところかなと思う。

そうでなければ、プロポーザルでなくともよくなる。きちっと決めてしまうのであれば、それを仕様書の中にそれを入れたうえでの入札でよくなる。

(相馬会長)

各キーワードに関する票数は出ているので、結局我々AグループBグループがこのキーワードに関して、どのくらい重要度、優先順位を置いているのか数字で見えるので、この数字でおおよそ我々委員の意向は見えると思う。

それは業者の方に提案をするので、そういうところまできちんとくみながらデザインをしていただけるようにお話しすれば、事務局から話があったようなデザイン、案になってくるのかなと個人的には思う。

(事務局 守)

プロポーザルの差はそういうところなのだと思う。

(相馬会長)

ただ、赤井澤委員のおっしゃることもすごくよくわかる。おそらく、そこまで落とし込んでやった方が我々委員としては落としどころが見えるのかなと思う。

プロに任せてみようかというようなご提案か。

(事務局 守)

例えば仙台空港。「東北と世界をつなぐ仙台空港」というのは仮に入れているだけだが、仙台空港アクセス線が直結してアクセス良好で、更に仙台空港の中にはレンタサイクル、サイクルラックがある。そこから、仙台空港がサイクリストのハブになって、名取市内とか宮城県内とか東北各地に行けますよとか、そういうものを方向性として示してあげれば、色々なものにつながっていきますよね、という話。

(相馬会長)

やはりその見せ方というか構成とか、関連性を視覚化する能力というのは、断然我々よりもプロの方がいいと思うので、その辺りをお任せしたうえで、我々で協議という流れにしてみてもどうかと思うが。

(事務局 守)

皆さんで、仙台空港だったらどういう風に発信してほしいのか、熊野三社だったらどういう風に発信してほしいのか、学都だったら・・・というのを示してあげれば、あとは編集委員会の議事録、今までのアンケート調査、ワークショップの中身も全部提供して、その中で手を挙げる業者さんがアイデアを出してくれればいいと思う。

(相馬会長)

赤井澤委員はいかがか。

(赤井澤委員)

5か月しかなく相当きついと思う。プロポーザルで5か月というのは。

(事務局 守)

そこは水面下で何社か聞いてみて、金額までは言えないが、このくらいの規模で来年の3月末までにできますかと確認したうえで、何社から大

丈夫ですよという返事があればプロポーザルでやりたい。

季節感というのもある。実際に発注できるのは、多分10月末とか11月上旬なので、そうすると夏の素材写真は撮れなくなってしまう。そこは我々が今持っている夏の写真とかをうまく加工していただいて、載せることになる。

ただ、一から我々がするよりは、業者さんの方をお願いした方が見栄えは全然違ってくと思う。

(赤井澤委員)

冊子3つ(茨城県境町、宮城県川崎町などの自治体のPR冊子)を見てみると、やはり若者受けするような冊子と、それから今までのような基本的な冊子があるが、これは見た目というか、完全に見た時のイメージでどれを取るかというと、若者だったらこの3つが並んでいたらこれを取る、みたいなデザインの違いがある。だから、冊子の印刷、デザインイメージについて「こういうのを基本としていただくと」というのを伝えたほうがいいのでは。

(事務局 守)

それを言ってしまうと、引っ張られてしまう。手を挙げようとしている事業者さんの良さが出てなくなってしまうので、そこはフラットに考えないといけない。

(相馬会長)

私も20代はとうに昔の話なので、今の20代の人達のイメージとかは、年配の我々よりも業者の方が確実にターゲットに適したデザインを持っていると思うため、この辺りはプロフェッショナルに任せてはどうか。

(宮澤委員)

仕様書の8番で2000部納品とあるが、これはどのようにして20~30歳代の手元に行くのか。どこかに置いてあって、それを取っていくのか。

(事務局 守)

今考えているのは、冊子は流行らないとっていて、そうは言っても冊子は作るのだが、基本はホームページにデータを掲載しダウンロードできるようにする。

そして2000部をどこに置くのかというと、公共施設に置いて誰も取

っていかないで、例えばレストラン、カフェ、美容室といった待ち時間のあるような所に我々が回って、置こうかなと考えている。

あとは、近隣の仙台市、岩沼市、多賀城市、利府町といった若い人が多いような町でも同様にレストランやカフェといった、若い方、特に女性が来て、何かをする前に時間があるような、そういった施設や店舗に置かせてもらえるように、営業ではないが、行こうと考えている。そうでないと、なかなか手に取ってもらえないだろう。

基本的にはウェブで見てもらおうとは考えている。

(宮澤委員)

掲載するプラットフォームのイメージはあるか。このサイトに行くと、デジタル冊子が置いてあるとか。

(事務局 守)

可能であれば、市のホームページのトップページに「冊子」のバナーを載せて、そこをクリックすれば見られるという形にしたい。広報係と同じ課なので相談する。

(相馬会長)

是非お願いしたい。

(相澤委員)

仕様書というよりは掲載項目に近いと思うが、名取市側の「思い」があるのでは。例えば、総合計画や、こういう方向に進んでいきたいという思いがあるのではないか。それをうまく魅力冊子に掲載することができればいいのではと少し思った。

たまたま、私がいる会社が項目にあるので、私どもとこの方向性（案）の「東北と世界をつなぐ仙台空港」はまさに的を射ている内容で、言ってしまうと、名取市の交流人口の拡大につながるような、そういうような取り組みをやっている会社である。なので、そこには名取市の考える計画というものもあるのではないか。それがうまく魅力冊子のできあがりの中にうまく掲載されていくといいのかなと思う。

と言っても、あまり行政色を出すというよりは、そういう思いも入っていると感じられるか取れないかくらいの、いやらしい感じの「思い」というのも、掲載されていてもいいのではないかなと思う。

(事務局 守)

まさにこれにまぶされていて、20～30歳代の方たちがどんどん他の町に引っ越しているという状況がある。長期総合計画などの様々な計画の中にそういう若い方たちにまず定住していただいて、外から名取の魅力を感じてもらって移住してもらうというのは名取市の施策で重要なものの一つになっている。

(相澤委員)

そもその土台が、ということか。了解した。

(事務局 守)

これは目的の方にあげている内容である。

それを基に冊子のコンセプトなどを立てているので、問題ない。

(相馬会長)

ほかに意見がなければ、今お話ししたような内容で進めていきたいと思うが、よろしいか。

(事務局 守)

我々とすれば、例えばC案の9項目はこれで確定という形で捉えているのだが、方向性はどうなるのか。一旦、決まった企業さんの案を見るという形になるのか。

そうすると、仕様書として一覧表に出すのは項目だけで、あとはどういった形で記事を書くのかは、今までの編集委員会の議事録を見ていただいたうえで企業さんがアイデアを出して、企画提案してくださいとする。そして最初の案が出た段階で皆さんにお示しし、そこに企業さんも来ていただいて、揉んでもらうということによろしいか。

(相馬会長)

はい。何か事務局で不安があれば。

(事務局 守)

できれば、その方向性は示した方が企業さんはやりやすいのではないかと思うが。

(相馬会長)

方向性という言葉が抽象的過ぎて、具体的にどういうところまで求めているのか、個人的には見えていない。例えば、方向性というどのような意味合いなのか。

(事務局 守)

記事的には、例えば先ほど言った仙台空港だと、単にアクセスが良いとするのか、仙台空港に行けばある程度完結するとか、そういうアイデア出しをしたほうが良いとは思った。例えば古墳だと、ただ単に古墳の説明だけで終わってしまうのではないかと。古墳だと難しいが、「自然・自然の豊かさ」だと、山とか海とか、自然が豊かですよというだけになってしまうのではないかと。

(相澤委員)

実際に作られる記事の内容が、仙台空港の場合は仙台空港の人（相澤委員）がいるので大丈夫なのだが、例えば熊野三社など、本来の意味と違うような内容を第三者目線で書いて、発行されたら実は内容が少し違うとか、極論を言うと全くとんちんかんなことが書いてあって、写真だけ載っているという風になるのは防がないといけないのかなと思う。

どれだけこの項目、それから方向性に対して本当にそこに関係してくる当事者に対して取材というか確認を取る術はあるのか。

(事務局 守)

一応予算の中には取材も含まれている。取材に行ってもらわないと記事にならない。例えば「せり・せり田」の説明だけではなく、せり農家さんにインタビューをして、名取の良さとかを語ってもらえるのもいいのかなと思う。そういったところが方向性である。

このままだと、私などは古墳なら古墳の説明、閑上地区だったら閑上地区の観光スポットの説明だけになってしまうのではないかと感じてしまう。それは多分皆さん意図していないと思う。

先ほど赤井澤委員がおっしゃったように、人に焦点を当ててほしいのであれば、そこは入れ込まないといけない。必ず「ヒト」「モノ」「コト」に結び付けることというのも、難しいと思う。

(相馬会長)

今回、大きな方向性は示したうえで、優先順位の付いた 80 項目の一覧を業者へ提示した時点で、きっと業者としてはその方向性にどのキーワー

ドが入ってくるかということをやると思う。その方向性の中でキーワードが入ってくると、必然的に書く内容は決まってくると思う。記載する内容は決まっているため、大きな違いは出てこないと思う。

ここからまた更に我々の方向性を決めるというところも、正直、どこまで落とし込んでやればいいのか、そういうところで難しいかなと思う。それこそ、委員によって意見とか考え方がだいぶ変わってきてしまうのではないかな。

委員の皆様はいかがか。

(相澤委員)

方向性(案)がこれで本決まりなのか、これを見直すとした場合、もっと具体的にするのか、このレベル感にするのか、もっと抽象的にするのか。議論しようにもできない部分でありつつ、でもだからと言って掲げないといけない部分ではあるのかなと。ひとまずはこの方向性(案)でいいのかくらいは、委員が集まっている場で、それこそ坂口委員もいらしていないため、そういうところは今のメンバーでも一旦この場で議論した方がいいのでは。

(事務局 守)

例えば、必ず「ヒト」に繋げてくださいねとか。

(相馬会長)

その「ヒト」がこの方向性の中に関わってくる票数の多い「ヒト」の中に無かったとしたら、業者は繋がられない。

まずこの共通項というのは、AグループもBグループも両方とも優先順位が高かったものなので、仙台空港、熊野三社という項目としては本決まり。それをどう表現したかというところが、今回事務局から出してもらった方向性という部分だと思う。だからその方向性という言葉の意味合いによって、色々な表現ができる。それこそ、宮澤委員がおっしゃるように言葉としてどう見せるかというところに繋がってくると思う。この方向性というのはあくまで方向性であって、ここも企業によって変わってきてもいいのかなと思う。ただ、見せないといけないものというのは絶対に揺らがないと思う。

(事務局 守)

では項目だけお示しして、今までの会議録とか、80件のデータを企業さ

んに見ていただいて、企業さんが思う方向性で、プロポーザルで企画提案してもらおうという形でよいか。

(相馬会長)

という風に個人的には思うが、委員の皆さんはいかがか。

(宮澤委員)

ほかの自治体の仕様書を調べていた。どの程度仕様書に書いてあるのかといたら、この仕様書(案)くらいかなというところ。あまり決めすぎると自由な発想が出てこなくなるなどというのも分かるし、私はどちらかという、アイデアというか、忌憚なきものが欲しいなと思う方なので、あまり決めない方が広くアイデアが取れるかなと思った。

例えば某市だと、「県産食品の極上の一品」とか具体的な項目まで書いてあり、パターンとしてありなのだなと思ったが、あとは好みであると思う。

私は、ここまで「仙台空港」というキーワードを出して、それでターゲットが20～30歳代と見えていて、印刷業者さんが発信するアイデアというのを私たちが決めればいいのか。

(事務局 守)

コンセプトに20～30歳代とあるため、その辺りも含めて、企業さんの方でアイデアを出していただく。

では、あくまでも項目だけ出して、ただ、今まで皆さんにお話ししていただいた内容等は提供します。今回の資料であったり、お話しした内容も提供するので、それを題材にして20～30歳代に刺さるようなタイトルであったり、冊子の記事の切込み方とか方向性とかのアイデアを出してくださいという形でよろしいか。

(相馬会長)

はい。

反対にその予算の中でやってもらえるのかと、素人の意見としてはそこまで本当にやってもらえるのか心配ではあるが、そのためのプロポーザルということ。

(事務局 守)

この予算でどこまでやっていただけるのかと。

(相馬会長)

素材はもう決まっているので。

(事務局 守)

項目出しもしているなので、その1000件とか80件から探すよりは、全然企業さんからすればいいと思うし、取材も名取市内だけなので、そんなに何週間もかけて取材はできないはず。1日3~4件とかで、2~3日あれば取材は行けると思う。

(相馬会長)

ではあとは事務局の手腕に任せるということで。

(事務局 守)

もしだめな場合は入札にせざるを得ない。

声をかけて、手を挙げますよという企業さんがいれば、最終的に声をかけて一社になるかどうかは分からないが。

(相馬会長)

了解した。

では一応決着ということでよろしいか。

5 その他

(事務局 守)

次回の編集委員会は、冊子の初稿が上がってきた時期に開催する。できれば、皆さんへ事前にデータでお示したい。これは決まった業者さんと協議しないと分からないが、今回は余裕を持った形でお知らせできればと思う。

先ほど説明したように、プロポーザルになった場合は、会長と相談のうえ皆様の中から5名程度審査員として決めたいので、協力願う。

6 閉会

以 上

第4回名取市『(仮)なとりの魅力冊子』編集委員会 出席者

No.	所 属	役 職	氏 名
1	尚綱学院大学	准教授	相馬 亮
2	一般社団法人 名取市観光物産協会	観光委員会委員	赤井澤 正志
3	名取市商工会	主任主査	伊藤 弘輝
4	社会福祉法人 名取市社会福祉協議会	福祉活動専門員	小室 直実
5	仙台国際空港株式会社	管理部コーポレートグループ シニアスタッフ	相澤 侑也
6	株式会社東日本放送	みやぎプロモーション室 室次長兼ビジネス局企画事業部	宮澤 直宏
7	企画部	政策企画課 主査	齋藤 裕美

【事務局】

企画部なとりの魅力創生課	企画部次長兼 なとりの魅力創生課長	藤原 淳
	課長補佐兼魅力創生係長	守 正樹
	魅力創生係 主査	佐藤 文人
	魅力創生係 主査	松原 妃